

仙台市太白山自然観察の森 情報誌

2021



のおくりもの12

The Gift from Woods

No.363

ニホンカモシカ（ウシ科）



【写真 T.H】

今年は、東京オリンピック・パラリンピックが1年遅れで開催されるなど、いろいろなことがありましたが、早いものでもう年の瀬を迎えてしまいました。

写真はニホンカモシカです。シカと言ってもウシの仲間です。世の中では丑年が終わり寅年になろうとしています、太白山自然観察の森ではいつもの変わらぬ冬を迎えようとしています。

紅葉が終わり、フルカラーからモノクロームに変化するこの時期も思わぬ発見があるはずで、防寒対策をしっかりと備え自然観察の森に出かけてみてはいかがでしょうか。冬の動物に出会えるかも知れません。

【文 館長：川上正博】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『努力は必ず報われる』(どりよくは かならず むくわれる)

紅葉で彩られた葉もすっかり落ち、見通しのよくなった雑木林の光景に冬の訪れを感じます。林床を見ると、所々に大きくて白っぽいひと際目立つ葉が散らばっているのに気が付きます。ホオノキの落ち葉です。大小ありますが、大きいものは人の顔より大きく、お面や飛行機にして遊べます。とても丈夫なので、葉を直接火にかけて調理する朴葉味噌などの郷土料理にも使われます。

ホオノキは落葉樹なので葉の役目は半年しかないのに、なぜこんなに大きくて丈夫な葉をつけるのか、葉を作るエネルギーを考えたら割に合わない気がします。葉だけでなく花も実も種子も大きいです。花は香りで虫を呼び受粉しますが、開花の際に雌しべと雄しべの成熟をずらし自家受粉を防ぐ工夫をしています。そのしくみだと受粉するタイミングが難しいのか、大きい実に種子はそれほど入っていません。種子ができないなら、花や実は無駄になってしまいます。しかも、せっかく種子が実ってもそれが自家受粉だった場合、発芽率と生存率が著しく低い性質があるそうです。

ホオノキの生き方は非効率に思えますが、実は自然を生き抜くためたくさんの努力をしているのです。葉はお互いが重ならないように車輪状に広げて光を効率よく受けられるようにし、日陰ではあまり葉を出さないようにしています。幹はまっすぐ伸び、他の樹木に光を奪われないよう、早く高く生長することを優先します。種子は生育するための十分な光が差し込む場所になるまで発芽しないように20年以上休眠できることや、根や落ち葉から発芽や生育を阻害する物質を分泌して、他の植物が生えないようにしています。数々の工夫は、「たとえ結果は報われなくても、最大限の努力をする」ホオノキの美学なのだと感じました。

座右の銘に『努力は必ず報われる』という言葉がよく使われます。「いくら努力をしても成功に結びつくとは限らないのが現実。しかし、努力しなければ実現の可能性はゼロ。成功することが全てでなく、努力した過程で成長につながる。報われるとは成功することではなく、成長したという事実。」という記述を見つけました。この言葉は、ホオノキを例えるのにぴったりだと感じます。サッカー選手の本田圭佑氏も「成功にとられるな！成長にとられるろ！」と言っています。たくさんの種子を作るのではなく、より強い子孫を残すため数々の努力をしているホオノキ、半端ないです。私も成功にこだわらない生き方を見習いたいです。 【レンジャー：新田隆一】



12月の野鳥のレストラン情報

12月から3月末までセンター裏庭で恒例の野鳥のエサ台を設置します。研修室からゆくりと観察できますので是非お越しください。今月はこの季節に森で見られる野鳥たちを紹介したいと思います。【レンジャー：齋 正宏】



ヤマガラ

留鳥として一年中みることができる。オレンジ色の胸が特徴。

大きさ：14cm



シジュウカラ

胸の黒い筋が特徴。住宅地などでもよく見ることができる。

大きさ：15cm



スズメ

集団でやってくる。人影を察知するとすぐ逃げてしまう。

大きさ：14cm



ヒヨドリ

他の鳥たちをけちらし、バードテーブルを占領することもある。

大きさ：28cm



カワラヒワ

小グループで行動する。パンチのようなくちばしでひまわりの殻を割って食べる。

大きさ：15cm



カシラダカ

冠羽を逆立てているのが特徴。小グループでやってくる。

大きさ：15cm



アオジ

バードテーブルにはのらず、地上でエサをついばむ。小グループでやってくる。

大きさ：16cm



ガビチョウ

特定外来種に指定されている。特徴的な鳴き声で他の野鳥の鳴きまねをすることもする。

大きさ：24cm

森の「あれこれ」



「冬の蝶」

「いよいよ冬が来た」と皆さんが感じるのはどんな時でしょうか？観察の森を歩いていると「手がかじかむ程の北風」や「霜で真っ白な落ち葉」、「ルリビタキやベニマシコなど冬鳥たちの姿」など様々ですが、私は「ウラギンシジミ」というチョウの姿を見つけた時「ああ、冬だなあ」と感じます。よろしければ下の写真から探してみてください。一頭いますよ。



見つかりましたか？写真のほぼ中央です（拡大した写真は左下に）。ウラギンシジミは翅の裏面が銀白色の南方系のチョウで、成虫の姿で冬を越しますが、この日はなんと昼から気温が上がり、目覚めたチョウは移動しゆっくりと翅を広げました。美しい紅色紋でオスだとわかります。冬の寒さと乾燥に耐え春を待つ姿には勇気をもらえます。また寒さが戻れば、再びその姿を見ることができるよう。【レンジャー：木田秀幸】



森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*_*)

植物が冬の寒さを凌ぐ姿は様々ですが、葉をロゼット状(バラの花びらのような葉の並び)にした姿もこの厳冬期を乗り切る姿のひとつと考えられます。写真はシュロソウ科のショウジョウバカマのロゼットです。茎を伸ばさず、地面に輪状に付いた葉を互いにできるだけ重ならないように配列した姿は、同心円状で確かにバラの花のようなつくりをしています。葉の中心には、花芽か新芽らしき塊が見えますね。 (^_^)



ショウジョウバカマの周りを見てみると、そのショウジョウバカマを中心に写真Bのように、赤丸で囲むように他のショウジョウバカマが生えていることが多くあります。ショウジョウバカマは3月から4月に写真Cのような花を咲かせ、その後に、花茎を一気に50~60cmも伸ばし、2mm位の図Dのように羽のようなもの(付属体)が付いた種子を風でとばします。この種子がすぐ母株の近くに落ちて芽生えたのかもしれませんが。えっ、ちょっと待てよ、写真Aの葉先を見ると何かが付いていますよ。拡大してみましょう(写真E)。これはもしかしてショウジョウバカマの芽生えではないでしょうか。他の葉先にも付いていますよ。実はショウジョウバカマは葉先に自分の子供(クローン)を作っても増えるんです!!(栄養繁殖)。それなら母株を囲むようにショウジョウバカマが生えているのも納得できますね。 (^_^)

【レンジャー:菅原幸彦】

12月のイベント & お知らせ



イベント

新型コロナウイルス感染拡大や天候の急変等でイベントについても変更となる場合がありますので、観察の森のブログ等でご確認お願い致します。

参加の際、新型コロナウイルス感染対策のため同意書の記入をお願いしています。

◆「野鳥のレストラン」OPEN

【日 時】12月1日（水）より来年3月31日（木）まで

野鳥のためのエサ台を設置します。研修室から野鳥たちを驚かせず間近に観察できますよ。野鳥クイズもお楽しみに！

◆「冬期期間のガイドウォークについて」

10:00～11:30のみの開催です。

◆「おはよう野鳥かんさつ」

野鳥の会講師による案内でバードウォッチングを行ないます。

【日 時】12月11日（土）7:00～8:30

【定 員】15名（先着）

【持ち物】双眼鏡、雨具、帽子、暖かく歩きやすい服装と靴で

【申込み】12月7日（火）9時より電話で先着受付

ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: (5日, 12日, 19日, 26日)

時 間: 10:00～11:30

※ガイドウォークは今月12月より
来年3月まで午前(10:00～
11:30)のみとなります。

休 館 日



6日, 13日, 20日, 27日

※毎週月曜日休館、月曜日が
祝祭日の場合は火曜日休館

12月28日から1月4日まで
年末年始休館日です。

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」乗

※③のみ可「太白団地、山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」

いずれも 公営アパート前 下車→ 徒歩15分

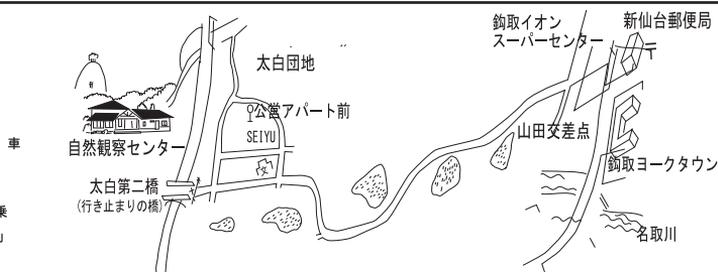


お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。

道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。

駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財) 仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター